

認知症施策の取り組みについて

資料 5-②

前回までの協議会でいただいたご意見、認知症地域支援推進員の個別ケースからの課題をもとに、オレンジパートナーでは対応ができない課題を項目分けし、事例を掲載しました。

事例（協議会内で、認知症地域支援推進員から口頭でも報告予定）を踏まえて、それらの課題を解決するためのアイデアについてご意見をいただきたいです。できる・できないに関わらず、あったらいいという理想で構いません。

いただいたご意見をもとに、高齢支援課・関係機関で検討します。第2回、第3回の認知症施策推進協議会でも引き続きご協議いただきたいと考えています。

	項目	事例	解決するためのアイデア
①	生活問題 (ごみ出し)	・和田団地のゴミ出しが困難。JKKの理解なく、時差だしも困難。介護保険のヘルパーが入っていない方への支援がない。 ・ゴミをまとめて出すのは自分でできるが、行動にうつすのに声掛けが必要。	・定期的なごみ出し支援を行う地域住民グループの結成 ・ごみ出しの声かけ
②	移動のバリア (移動、交通機関の利用等)	・1人での外出が不安。行き慣れた場所（体操教室）への準備や、時間や道がわからなくなってきた。荷物を忘れていたりすることが増えて、気おくれするようになってきている。 ・100メートル先の集会所で囲碁を打ちたいが、日時、ルートがわからなくなってきた。趣味活動に参加できなくなる。 ・散歩、図書館、買い物、公共機関へ行くサポート、予防接種の同行など、日程が不規則な行動や不特定な場所への支援が必要。	・認知症エスコートサービスの創設 ・介護事業者等の車を活用した移送支援 ・参加するグループのメンバーによるサポート ・認知症本人が行く場や、本人の居住区の住民への理解啓発
③	社会参加のバリア (買い物・手続き窓口・通いの場)	・買い物、図書館、コロナの予防接種会場、体育館、近トレや元気アップ体操、サロン活動等、声掛けや同行者がいれば通い続けることが出来る。 ・団体により認知症への理解や認知症の方への受け入れの認識の差がある。	・認知症の方への理解・配慮・サポートのあるお店の認定 ・ゆっくりレジ ・インフォーマルサービス相談所 ・認知症本人が行く場や、本人の居住区の住民への理解啓発（再掲）
④	関係機関との連携 (見守り・行方不明)	・GPSは、本人の拒否や家族が機器を使えない、毎回違うカバンや靴を使うので携帯できない等の理由もあり、活用が難しい現状。 ・声掛け、見守りにおいて、民生委員の存在が大事だが、不足している。 ・行方不明者を警察が保護しても、家族に連絡取れない時に対応が難しい場合がある。（宿泊施設でない執務室での保護など）	・「ヘルプカードの配布」実施 ・民生委員不在地区の見守り体制 ・夜間の見守り体制 ・市、民生委員、警察、保健所との円滑な連携を図る仕組みをつくる
⑤	就労関係	・働く意欲が増加すると生活に張り合いが出る	・就労の場をつくる
⑥	その他	【災害時】 ・軽度や認定を持ってない認知症の方は、災害時に対応する判断ができない。（リストのある要介護3以上までいかない人） 【周辺症状への対応】 ・お店によって「認知症」と思われる人の、万引き・無銭飲食行為についてに対する統一的な対応が整っていない。	・災害時の声掛け互助の体制づくり ・認知症の方への理解・配慮・サポートのあるお店の認定（再掲）